

オラトリオ 光のみちを細川ガラシャの愛 [東京初演]

明智光秀の娘として生まれ、細川忠興に嫁いだ細川ガラシャ（明智玉子）は、本能寺の変により“反逆者の娘”というレッテルを貼られながらも、キリスト教へ入信し、敬虔な信者となり、関ヶ原の合戦直前に壮絶な最期を遂げました。3人の息子がいる細川家、夫忠興の名誉を守り、父光秀の娘としての誇りを忘れず、潔く“今ぞ死すべき時である”と受け入れたその生涯は今でも人々を惹きつけてやみません。17世紀のウィーンでは『気丈な貴婦人グラティア』というオペラに、ハプスブルク王朝の女性たちが見習うべき手本として描かれ、19世紀には“キリスト教の信仰を守った女性”を記した『女性たちの輝き』という本に「丹後の王妃グラティア」として登場。ヨーロッパでもブームとなりました。争いも天災もつづく21世紀、作曲家 徳山美奈子が、ガラシャの生き様を描いたオラトリオとして生みだし、2025年熊本で初演、大成功を収めました。熊本地震から10年の2026年、あらためて世の平安を祈念し～オラトリオ「光のみちを～細川ガラシャの愛」東京初演を開催します。



写真：忠興、ガラシャが眠る「四つ御廟（ごびょう）」（熊本県熊本市）



細川ガラシャは、戦国の世を生き抜いたひとりの女性として、信仰に生き誇り高くその生涯を全うしました。武家の娘、妻、母としての顔をもちながらも自らの信念を貫く彼女の人生は時をこえて今もなおわたしたちの心に深く響きます。ガラシャの心の葛藤や美しさ、強さが「オラトリオ」という芸術形式を通してどのように表現されるのか…歴史と芸術が交錯する特別な公演をお楽しみください。



熊本地震から10年「細川ガラシャの愛」東京公演実行委員会名誉実行委員長

細川護光（第19代細川家当主／永青文庫理事長）

写真：永青文庫（東京文京区）。室町幕府三管領の一つとして武門の誉高い細川家。現在の細川家は戦国時代に細川幽斎を初代として始まりました。永青文庫にはその細川家に伝わる歴史文書や美術品を所蔵し、現在は一般公開しています。

オラトリオ「光のみちを～細川ガラシャの愛」作曲・台本 徳山美奈子

一幕

- 一、何事にも時がある コレハートの言葉より～ガラシャのテーマ
- 二、おたっしやで～興入れの時
- 三、婚礼
- 四、玉は宝じゃ～愛する時
- 五、幸せの風
- 六、時は今！本能寺へ！！
- 七、謀反人光秀
- 八、Persona Non Grata
- 九、父上様は耐えに耐え～光秀辞世の句
- 十、奈がれての～幽閉の時
- 十一、有平糖～子別れの時
- 十二、生きる！味土野へ！！

二幕

- 一、味土野にて
- 二、歌留多
- 三、悲しむものは幸いである～マタイの福音書より
- 四、玉子帰館～本当に大切なものは
- 五、生きることの罪～ローマの信徒への手紙より
- 六、私を去らせて
- 七、こんてむつすむん地～トマス・ア・ケンピス
- 八、玉子受洗～光のテーマ
- 九、関ヶ原へ
- 十、十六の時に結ばれて
- 十一、涙よりオラショを
- 十二の一、ガラシャ辞世の句
- 十二の二、忠臣小笠原少斎～ガラシャは光となり
- 十三、すべては相働きて益となり～ローマ信徒への手紙より

大田区民ホール・アプリコ 東京都大田区蒲田5-37-3

交通・アクセスはこちらをご覧ください▶

